

オーガナイザー祭

②オーガナイザーセッション（代表的 CO キャンペーン実践発表）議事録

しん一（し）：モデレーターを務める、COJ 副代表理事のしん一です。華乃子さんと同じく、僕もニューヨークでオーガナイザーとして働いていた時期があります。街には多くの「オーガナイザー」たちが活動していて、そのオーガナイザーたちが定期的集まる機会がありました。そこには何十年選手のベテランオーガナイザーから、10年選手、5年選手、そして当時の僕のような新人まで様々な人が参加していて、その場を通して「社会に働きかけていくことができるんだ」と感じたことがとても印象に残っています。

本日はのご登壇者を、COJ がそれぞれ異なる形でコーチ関わった、実践の3ケースとして紹介しました。『生活クラブ風の村』島田朋子さん（ともちゃん）は、既存の組織の中で実践しています。『ちゃぶ台返し女子アクション』大澤祥子さん（さっちゃん）はそれまで実績などが無かったところから、ゼロから始めた新しい実践です。

『まんまるママいわて』佐藤美代子さん（ピンキー）の実践は、個人で取り組んでいた中で関わり、その後どう変わってきたか。

それぞれがコミュニティ・オーガナイズングを実践の中で取り入れることで、活動がどのように進んでいったか、ということをご覧頂けたと思います。

し：ピンキーの実践では、同志が変わったのがとても印象的でした。最初は同志に「お母さん／ママ」は入っていなかったのですよね。CO ワークショップを受けた方はそのジレンマが分かるのではと思います。キャンペーンを立ち上げる、同志は誰か、と言う時に活動をしている人たち（支援者たち）が同志で、その利益を受ける人たち、本来の同志を同志に含めていない、ということが少なくないと思います。

同志に「お母さん／ママ」を入れる時は、どのような気づきがあったのですか。またそれに気づいてから、同志である「お母さん／ママ」への語り掛けはどう変わったのでしょうか。

ピンキー（ピ）：震災までは、自分は支援者だと思っていました。助産師だからお母さんたちを支援しなくてはならない。でも震災後に、被災地のお母さんたちと出会う中で、私たちがお母さんたちから受け取っているものがとても多いことに気づきました。お互いに受け取っている、循環している。その想いを団体名を「まんまるママいわて」に込めました。でも、CO ワークショップを受けたときは、同志は支援者でした。お母さんたちは「困難な人たち」だから無理、と思ったんです。コーチングを受けていく中で、CO のステップを全部網羅していき、同志は誰かというところをかなりしっかりと話し合いました。半年くらいかかりましたが、同志はお母さんだ、やっぱりそうなんだと思って、ママを同志に含めたら様々なものが一気に動き出しました。

それまでは、お母さんたちに負担をかけてはいけないと思い、お母さんたちとの関係構築

はしていませんでした。同志と位置付けてから関係構築を始めたのですが、最初に「時間を取ってください」と話しかけたのが現在の副代表です。お母さんたちは「か弱い存在じゃないんだ」と気づきました。

華乃子：コーチとして同志にお母さんが入っていないことには、違和感をもっていました。「本当の同志は誰なの？」と感じて問いかけ続けました。

し：さっちゃんの実践では、途中でキャンペーンゴールの設定を変えましたよね。戦術を変え、アクションリサーチを取り入れた。コーチングを受けて、戦略戦術を変えていったと思うのですが、その話を詳しく聞かせてください。

さっちゃんのキャンペーンは、華乃子さんと共同で進めていく中で、ピアコーチングも行っていたと思いますし、他の方の関わりもあったと思います。全体でどのようなコーチングがあったのですか。

さっちゃん（さ）：華乃子さんとピアコーチングをしながら進めていたのですが、「参加者が主体的にならない」という課題を話し合っていました。私自身も、その時の状況にじっくり来ていませんでした。話していく中で「私たちイベント屋になってるよね、これはオーガナイズिंगじゃないよね」ということを再確認して、オーガナイズिंगにしていくにはどういうことが必要か、話し合いました。

コーチングについては、華乃子さんは COJ 理事の純子さんのコーチングを受け、私はマーシャル・ガンツ先生のオンラインのハーバードの講義を受けているので、その講座を受けている世界中のオーガナイザーからコーチングを受けていました。

いろいろなところからのインプットがあり、少しずつ変わっていきました。

し：さっちゃんの受講しているガンツ先生講座と言うのは、(授業料はかかりますが) 申し込んで受け入れられれば誰でも参加できるというものです。今回さっちゃんは、一念発起して受講をしたということですよ。会場の方で興味のある方は、英語がある程度できることが条件になると思いますので、日本語でのコーチングを希望される方は COJ で…笑。一度目標を掲げてしまうと後に引けなくなってしまう、特にドットリーダーに見られると思いますが、弱い姿を見せると周りがついてこなくて、キャンペーンが崩れてしまうのではないかと考えることで自身のバランスが崩れ、どんどんマイナスに転がってしまう…可能性がある中で、周りのコーチングやサポートを受ける中で、前向きな戦略・戦術の変更ができたのだと思います。

し：ともちゃんの実践ですが、福祉の事業所にいると上司から Supervision (指導) を受けることがあると思います。何故それだけではダメだったか、COJ (華さん) のコーチングと普段の上司からの Supervision はどう違ったのでしょうか。

ともちゃん（と）：華さんのコーチングは、電話で受けることが多かったのですが、私は一生懸命、諦めよう諦めようとしている。それに対して華さんは「うーん、それはどうして

なんですか？」という感じで聞いてくるわけです。私は諦めることを諦めた、という感じ
です。私は投げ出したいという気持ちがあったけれども、いい意味で粘り強く、そうさせ
てくれなかった。仕事の中で出てくるものとやっぱり違います。そこにはお金は絡まない
し、純粹に同じ価値観をもって、同じ目標を目指してやっているんだということが、言葉
にはなくても、伝わってきました。華さんの持っている使命感に、引っ張られたという感
じです。

し：そういう意味では、コーチとの関係構築が前提にあり、コーチの価値観が共有されて
いると、そこで何気ない一言に重みを感じる、ということですね。

と：「じゃあやめれば」と言ってくれない笑。

し：柔らかな語り口で一步も引かない華さんのコーチングは凄いですね。

し：今回実践を通して、達成できたことや自分が成長したと感じたところを踏まえて、最
後の一言をお一人ずつお願いします。

と：仕事では関係構築せざるを得ない状況なので出来るのですが、自分は関係構築が非常
に苦手だということも分かっていたので、最初は少し苦痛でした。でもそれができて、そ
こから得られるものがとても多くて、またそれがつながっていくので、物凄く大きなもの
を手に入れることができるのだということが分かりました。メンバーも同じように感じた
のではないかと思います。メンバーは、最後は私がエンパワーメントしなくても自分の力
で動き出していて、成長を感じることができました。すごく良かったと思います。

さ：私たちのキャンペーンは誰一人、ジェンダーの専門家がいませんでした。普通の働く
女性たちで、何か違和感を持っている人たちが集まってやりました。自分の想いを発信す
る経験のない人たちが、表参道の公道でプラカードを掲げて「**We have power!**」と叫ぶこ
とができたのは、関係構築や、お互いが思いを語り合ってきた信頼の絆があったからだ
と思います。オーガナイズングでのそれぞれのフェーズで、皆がリーダーシップを発揮す
る機会を持てるように、そしてきちんと一人ひとりと話す、ということを繰り返していっ
たからだと感じました。一人ひとりの成長を感じられたキャンペーンだったと思います。

び：COの実践に取り組んで、最初はCOが関わっていく形で始めたのですが、ピアコー
チングが始まって、岩手の仲間たちと一週間に一度集まってやっていたのですが、COが入ら
なくても、月に1回集まってやっていこうということになり、メンバーの絆が強くなった
と感じます。

実践事例、成功事例として発表することが多いし、今回も実践事例報告集に載ったので
すが、実際そんなにうまくいってないというか、大変なところもたくさんあって、チームが8
人に広がったけれど、また2人脱退してまたチームを作っていかなきゃ、と楽なことばか
りではないのですが、COを始める前の困難とは明らかに変わった、進んだ段階の困難さが

あって、それに仲間たちと支え合って乗り越えていける強さがこの 1 年半でついたかなと思います。教科書を読んでもできるほど楽ではないです。でもだからこそ楽しかったし、取り組んでよかったと思います。

し：ありがとうございます。今回発表してくださった皆さんとは元々知り合いだったので、今回のセッションを行うにあたって細かく打ち合わせなどをしたのですが、本当に「オーガナイザーだな」と感じる部分がたくさんあり、それは同志、戦術、戦略という言葉を使うという、共通言語があるという部分はもちろんありますが、それ以上に実践する上でのこだわり、大事にしているものに共通する部分があると感じました。「そうそう、そこにこだわらないと始まらないよね」という想いが共有できたので、そのこだわりで繋がれるオーガナイザーのコミュニティが広がっていけばと思います。社会は自分自身もそうだが

社会の中で、「こういう時って面倒くさいな」と思って弱気になって諦めてしまったり、仕方ないなと思ってしまうことがたくさんあり、それが社会の閉塞感に繋がっているのではと思います。でも「こだわりをもって、諦めや閉塞感を打破する」というオーガナイザースピリッツを 3 人から感じました。今日は有難うございました。